

Epistula

エピストゥラ... epistula, ae, f. 手紙、文章【ラテン語】

音楽科特集号

vol.
25

大分県立芸術文化短期大学
2012. Spring

創立50周年 第47回定期演奏会

平成23年10月10日、3:30の総合文化センター「ミナモト・グランシアタ」にて創立50周年記念行事の一環として第47回定期演奏会を行いました。

演奏曲目は、ラヴェル作曲「ダフニスとクロエ」第2組曲、ベートーヴェン作曲交響曲第九番「短調作品125」「合唱付き」で、今回指揮者に読売日本交響楽団正指揮者の下野竜也氏、そして本学卒業後アメリカを中心に世界的に活躍されているソプラノの木下美穂子氏、同じく本学卒業後日本を代表するバスとして活躍されている伊藤純氏を招いて、本学教員のアルトの愛甲久美准教授、テノールの行天祥晃准教授も加わり、盛大に行いました。オーケストラは、在学生63名と本学の卒業生20名、教員7名、九州圏内で活躍する客演6名で編成された大分県立芸術文化短期大学管弦楽団、合唱は、音楽コースを中心とした合唱団に男性合唱「大分第九を歌う会」から78名が賛助出演しました。尚、合唱指導は、宮本修教授、森口真司准教授が担当しました。

また今回は、3月の東日本震災に遭われて大分県へ避難を余儀なくされた方々へ県庁を通じて周知

れている方々へ県庁を通じて周知し、数人の方々が来場されました。そして開演に先立ち、亡くなられた方々、そして行方不明の方々へ全員で黙祷を捧げ、追悼の意を表しました。

下美穂子氏はアメリカから来日して参加して頂きました。演奏会本番では、指揮者のバトンに付いていこう、作曲家の意図を反映させようと精一杯の演奏が行われ、約1000名の聴衆との一体感がホールに満々と広がり、客席からは大きな拍手を持って受け入れられました。ステージ上で努力の成果を披露できた学生たちの満足な表情も感慨深いものでした。

学生の皆さんは、オーケストラ特講や直前集中練習に加えて、合唱練習やパート別分奏など、授業以外の時間にも自発的に練習に取り組まれました。練習は、音楽棟の小ホールだけで無く学生食堂も使用しなければならず、そのたびに、学食のテーブル・イスを片付けてスペースを作り、音楽棟から打楽器・チェレスタ等の大きな楽器、譜面台、指揮台等運び込んだり、大変な労力をみんなで協力しながら行いました。それでも合唱団とオーケストラのメンバーが揃うと学生食堂でも十分なスペースが取れず、窮屈な思いをしながらの練習でしたが、そうした皆の努力の継続が、熱意にあふれた演奏を生み出したことは言うまでもありません。

客演ソリストの木下美穂子、伊藤純氏お二人には前日夕方から参加して頂き、特にニューヨーク在住の木

下美穂子氏はアメリカから来日して参加して頂きました。演奏会本番では、指揮者のバトンに付いていこう、作曲家の意図を反映させようと精一杯の演奏が行われ、約1000名の聴衆との一体感がホールに満々と広がり、客席からは大きな拍手を持って受け入れられました。ステージ上で努力の成果を披露できた学生たちの満足な表情も感慨深いものでした。

宮本修 退官記念「冬の旅」独唱会

本学で長年勤められ音楽コース、音楽科大学の教育に多大な貢献を残された宮本修教授が、退官される最後の年にライヴワークであるシューベルト「冬の旅」全曲のコンサートを開催されました。以下は先生ご自身にお書きいただいた、音楽や「冬の旅」に関する思いです。



「へたに演奏家を目指すな、お前は先生に向いている。九州に帰り、声の原石を探し出して、東京へ送れ。あとは俺がめんどう見る。」大分県出身、生前日本を代表するバリトン歌手と称され、現在の東京二期会を創設された恩師中山悌先生の言葉の導きに促され、大分に戻ってきて36年目の昨秋、11月30日（水）退官記念「冬の旅」独唱会を持たせていただきました。中山先生は「冬の旅」は生歌い続ける芸術歌曲の基本がすべての中にある。その時は分からなくても、歌う度に、その都度見えてくるものがある。余計な色気は出さず。お前には基本をたたき込んだから、どんなことがあろうと歌うことを止めるな、必ず歌い続ける。」

私は「冬の旅」終曲、第24番「辻音楽師」（ライエルマン）を歌いながら、感慨ひとしおでした。その老音楽師の回りには誰ひとりとして彼の歌を聴いてくれるものがないのに、ライエルマンは淡々と歌い続けているのです。何故歌うのか？何故歌わねばならないのか？問う事も拒絶して、ただ無心に歌っているのです。——そう、歌い続けることは生きることなのだということ。中山先生は私にとって、辻音楽師そのものであったのです。この歳を経て今、芸術の持つ大いなる意味を分かって戴いた退官演奏会でした。

Vita brevis, Ars longae（生命は短し、それと芸術は永遠である）

ピアノの小林道夫先生、日本語字幕を担当して下さった愛甲先生、行天先生。当日、会場受付等、裏方スタッフ役を受け持て下さった音楽科の全教員、副手の皆様、大学事務局職員の方々、本当に有り難うございました。心より感謝申し上げます。

宮本修

学長コラム

中山 欽吾



似顔絵／柳野 郁子
（専攻科 造形専攻1年）

音楽は、人の生活にはなくてはならないものです。楽しいにつけ、悲しいにつけ、音楽が耳に入ることと感情がますます高まって来るのは誰もが経験することだと思います。中でも歌の持つ力は格別です。

私が東京二期会で仕事を始めた頃、近郊の町で、6、7名の歌手による小さなコンサートを開いたことがあります。お客様は全員がご老人達で、歌ったのはわらべ歌や小唄唱歌でしたが、終わった後に会場を後にする皆さんが目には涙を浮かべていました。感想文にはその歌の数々が如何に心を打ったかという文章で埋め尽くされており、歌は、それを聴く人の心の奥に眠っている様々な記憶を解き放つてあふれ出させる力を持っていると改めて確信しました。

最近、中高年の人達が、厳しい仕事の合間に、若い頃歌ったフォークソングやバンドを再開したり、当時人気だった歌手達のリバイバル公演に大勢集まるシーンがテレビで紹介されるようになりました。みんな夢中で歌を歌い踊っているのを見ると、歌の種類は問わないのではないかとさえ思えます。

本学で学ぶ若い人達にとっての思い出の曲は、どんな歌だろうと考えて見ましたが、子どもの頃お母さんから聴いた歌が、高校までの音楽の時間に習った歌が、人気グループの歌が、それともテレビから流れてきたコーマーシャルや番組のテーマ音楽が、あまりにも多くの歌があつてちよつと想像がつかません。それくらい沢山のメロディーが世の中にあふれています。

やはり歌の流行は短いので、年齢が少し違えば感じる歌も違うということになるのかも知れませんが、少なくとも私がくつと来る歌とは随分違つたろうなあとを思いを巡らせると、少なくとも明治期から私が育った頃まで連綿として歌い継がれてきた小学唱歌のような共通の歌は、今はもうないのかなあと少し心細くなるのです。皆さん如何ですか？



木下美穂子 愛甲 久美 行天 祥晃 伊藤 純

定期演奏会 出演学生の声

- 私にとって一生忘れることのできない貴重な経験でした。
- ソリストの先生方のあまりに素晴らしい歌声に圧倒されました。
- 本番で歌いきったときは、思わず涙が出そうになりました。
- 本当に楽しくて心に残る演奏会でした。
- 芸短でよかったと心から思うことができました。
- 将来はソリストとして芸短に帰ってきたいと思います。
- 下野先生の指揮に感動しました。
- 下野先生が着ているTシャツのロゴがとてもおもしろかったです。
- 芸短メンバーでもういちど第九を歌いたい。
- ダフニスの早いところの指とタンギングがむづかしかった。
- ダフニスは映像があらわれるようでした。（美術科）
- 圧巻、ただその一言だった。（情報コミュニケーション学科）
- 本番前日は全然眠れませんでした。
- ソロの練習を一日50回吹きました。
- 音楽の深いところまで考え、演奏するようになった。
- 自分自身とても成長した。
- 音楽への関心、知識、技術が深まって、意義のある時間をすごすことができた。

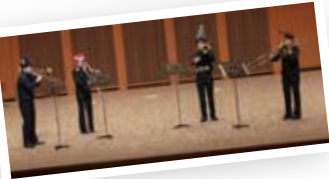


宮本修

管弦打コース

管弦打コース演奏会

12月14日(水) 18:30よりiichiko総合文化センター音の泉ホールで「芸短音楽科コンサートシリーズNo.59 管弦打コース演奏会」クリスマスコンサート: 師走に心温まるひと時を”を開催しました。2年前から6回のコンサートシリーズのうち3回は声楽・ピアノ・管弦打と3つのコースで担当し、それぞれ独自の企画を打ち出しています。今回はヴァイオリンデュオとフルートデュオ(いずれもピアノ伴奏付き)、木管とピアノのカルテット、フルートカルテット、トロンボーンカルテット、クラリネットアンサンブル、打楽器アンサンブル、弦楽アンサンブル、と楽器編成が多彩でそれぞれ特色ある作品を披露し、最後は森口准教授の指揮によるオーケストラの演奏でコンサートを締めくくりました。弦楽アンサンブル、打楽器アンサンブル、オーケストラの演奏には演奏員、教員も参加し、公開研究発表とは違ってリラックスした雰囲気の中で純粋に音楽を楽しむ内容のコンサートとなりました。



ミレニアム コンサート

ミレニアム コンサート
パーカッショングループ「ミレニアム」第13回コンサートを12月2日(金)18:30音の泉ホールで開催しました。これは打楽器専攻生有志によるもので、今回は学生と教員合わせて10名が参加し、これまでで最も多い人数となりました。演奏曲目はアンコールも含めて10曲で、ジャズ・アフリカン・ガムラン・ミニマル等多様なジャンルに渡る作品を演奏しました。

竹田スローフード演奏会

9月10日(土)
竹田市但馬屋新屋2Fムジカカレリア アラヤサウラにて管弦打コースよりヴァイオリン、ヴィオラ、チェロフルート、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン、ティューバ、そして打楽器の学生たちによって楽器紹介にはじまり、アンサンブルとサンシャイン作曲「動物の謝肉祭」を午前と午後の2回演奏しました。進行と指揮は、清水教授が行いました。9時に芸文短大をバスで出発し、18時に帰って参りました。演奏の合間や終了後には、竹田のスローフード体験があり、稲荷寿司を作って食し、街中のカフェやソフトリウム、そして足湯も楽しめました。

弦楽アンサンブルによる「ふれあいコンサート 上津江小学校」に出演して

専攻科 音楽専攻 2年 酒井 奈央

今回、上津江小学校での演奏は二度目で、前回の子供たちの元気のいいあいさつや一生懸命に太鼓を叩く姿に感動したことを思い出しながら、期待に胸を膨らませ向かいました。今年度で廃校になってしまうと聞いていましたが、去年と同様に子供たちは明るく、たくさんのパワーを届けてくれました。子供たちは自然体で熱心に耳を傾け、素直な心で聴いてくれたということこそを直接肌で感じる事ができました。また、日々の練習で忘れていていた音楽の楽しさや、どんな音楽でも聴いてくれる人がいることで成り立つという大切なことに気付かされました。これからも、ますます芸短生が音楽の魅力を通して、芸術文化の発展に貢献する機会を経験し、またその貴重な体験の中で得たものを自らの音楽活動に活かして欲しいです。私もひとつひとつの演奏できる環境に感謝して音楽を続けていきたいと思っています。



指揮コース

指揮者を自指す人はもちろん、指揮専攻でなくてもオーケストラやオペラに興味のある人はどなたでも大歓迎です。他人との共同作業をいったり、音楽への愛情があれば指揮の経験の有無は問いません。音楽を学び、演奏することは決してやさしいものではありませんが、生涯かけて追及するに値するものです。臆せず挑戦してみてください。

作曲コース 学生自己紹介

1年/主科で作曲をしながら副科でピアノと声楽とヴァイオリンをしています。ダンスサークルにも入っています。自分の学びたい事やしたいことができ、毎日楽しいです。これからはがんばります。

1年/チェロを副科でとっているのですが、管弦打コースの方と混じってオーケストラの授業にもせていただいています。作曲だけでなくいろいろな授業があって、とても充実しています。

1年/最近は先輩方が作曲した曲を聴く機会があり、すごく感動して刺激を頂きました。私自身は3月31日にコンパルホールで自作曲を披露するので、先輩方に負けないようにすばらしい曲を作る予定です。

1年/福岡からやってきました。高校では吹奏楽部でしたが、大学では作曲コースを選びました。作曲コースはみんな仲良く、先生もおもしろいです。まだまだ未熟ですが、これからがんばります。

2年/私はこれまで学んできた自分の力を試すために、できるだけコンクールに曲を提出するようにしています。その時に頂いた賞や先生方の評価は、私の勉強に対する励みになっています。今後もこういった活動を続けたいです。

2年/今は卒業作品製作中で、ピアノの連弾にパフォーマンスを組み込み、視覚的にも楽しめる曲を考えています。作曲だけではなくオペラサークルにも所属し、裏方として昨年12月に「魔笛」公演を終えました。

専攻科1年/私は大学で作曲の勉強をしながらヤマハのグレード取得のためにエレクトーンとピアノのレッスンに通っています。両立は大変ですが、これからは自分の夢に向かってがんばりたいと思います。

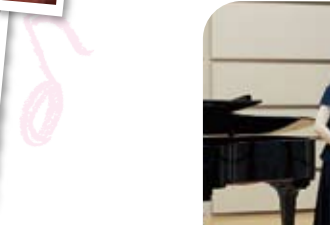
専攻科1年/私は映画音楽がきっかけで作曲を始めました。最近では写真家の方とのコラボレーションでオーストリアの花の写真に曲の提供をさせて頂いた作品がYouTubeにアップされました。これからは自分の作品のクオリティーを上げることと発信すること両方に力を入れていきたいです。

専攻科2年/私は、今年学位授与の試験を受けました。課題は15分以上の創作でしたが、先生のご指導の下どうにか仕上げる事ができました。研究の成果を作品にすることができ、よい経験になったと思っています。

声楽コース

声楽コースでは小林道夫、佐藤美枝子両客員教授による公開レッスンを専攻科生が、瀬山詠子講師による公開レッスンを短大2年生と専攻科生の全員が受講しました。

また、声楽コースの学生によるコンサートを2月17日18時30分～iichiko音の泉ホールにて開催し、後期実技試験優秀者による演奏(独唱)と専攻科生によるオペラ名場面集を演奏を通して観客に声楽の魅力を伝えました。



小林道雄 客員教授

佐藤美枝子 客員教授

瀬山詠子 講師

ピアノコース

ピアノコース 学生の声

「ピアノコースに入学して、今、思う事」

私が芸文短大に進学しようと思った理由は、学費が安いという点もありますが、一番は音楽を学ぶ環境が整っており、短大という特性から柔軟な進路決定ができると思ったからです。入学して、芸文短大では演奏の技術だけを身につけるというだけでなく、先生方の経験も聞くことができ、自分自身の成長へと繋ぐことができます。また、出演者として演奏会に臨む機会もあり、楽器を奏でられる喜びや本番をやり遂げて生まれる達成感是他では体験できない貴重なものです。私自身は、これらの経験で入学した時の自分より成長することができたと思います。このような恵まれた環境は他ではないと思うので、この時間を大切にして、より高いレベルを目指して自分の音楽を磨いていきたいです。(短大1年 山崎昭汰)

「第2回ピアノコース演奏会に出演して」

今回、昨年から始まったピアノコースの演奏会に出演させていただきました。舞台上弾くことは常に憧れであり、目標としていることです。何度も悔しい思いもし、いつか自分が弾けたらなと思うてきました。芸文短大入学当時、私は音楽に対する姿勢を何一つつかっていない、ゼロ以下からのスタートでした。そんな私が念願の専攻科に入学することができ、実際に弾けるのは、実力でも才能でもなく、真の音楽というもの、努力の姿勢、真っ直ぐに音楽に挑むことを教えてくれ、一緒に音楽を創ってくれた先生の支えのおかげだと思っています。一度しかない演奏本番は不安でした。でもだからこそ生の魂を奏で、それを聴いてもらうという音楽のやりとりはこの上ない宝物の瞬間でした。私達学生にとって、舞台上弾けるということは本当に貴重なことで、このような体験をさせて頂いたことに本当に感謝しています。多くの人の支えがあり学んでいることへの感謝を忘れず、この経験を糧に、人の心に響く演奏を求めて学び続けたいと思います。本当にありがとうございました。(専攻科1年 時田有美)

「専攻科修了を間近に控えて、芸文短大ピアノコースで学んだことを振り返って」

この4年間、音楽を通して、学問的なことから精神的なことまで幅広く多くのことを学ぶ機会に恵まれました。特に専攻科に入学してからは、演奏を通じて人に何かを伝えようとした時に、自分の中に具体的なイメージがないと表現できないことに気付かされ、絵画の展覧会や講演会などにもできる限り足を運ぶようになりました。

ピアノの演奏そのものは、孤独な作業ですが、幸い良き友人に恵まれ、音楽を奏でる喜びだけではなく、悩みをも共有しながら充実した学生生活が送れたことは生涯を通じての大切な思い出になることと思います。また、先生方には演奏に関することはもちろん、進路についても親身になって相談ののっていた、心から感謝しています。芸文短大で学んだことを糧に、今後も研鑽を重ねて行くつもりです。(専攻科2年 戸江 真以)



理論コースでは実技とは異なる音楽との「出会い」があり「発見」があります。「音楽と直観」向き合ってみよう」という意欲ある人、「好きな音楽で大学へ進み、就職は一般企業を」という希望を持っている人を理論コースでは歓迎します。

理論コースでは実技とは異なる音楽との「出会い」があり「発見」があります。「音楽と直観」向き合ってみよう」という意欲ある人、「好きな音楽で大学へ進み、就職は一般企業を」という希望を持っている人を理論コースでは歓迎します。

理論コースでは実技とは異なる音楽との「出会い」があり「発見」があります。「音楽と直観」向き合ってみよう」という意欲ある人、「好きな音楽で大学へ進み、就職は一般企業を」という希望を持っている人を理論コースでは歓迎します。

理論コース

理論コースでは音楽史と音楽分析を学び、コンピュータを活用し、研究論文にまで高めるようにカリキュラムと施設を整備しています。

理論コースでは音楽史と音楽分析を学び、コンピュータを活用し、研究論文にまで高めるようにカリキュラムと施設を整備しています。

作曲コース



最近の学生作品

- 金管八重奏曲 眞田大祐(2年)
- a Simple Song(ピアノ/連弾) 小田原 葵(2年)
- 「迷い」(歌曲) 秋月 杏林(2年)
- Vague(トロンボーンとピアノ) 幸 千晴(専攻科1年)
- nostalgia(弦楽四重奏) 吉野真知子(専攻科1年)
- 関根栄一の詩による合唱曲「柚子の月」 宮成 侑果(専攻科2年)

Epistula

エピストゥラ… epistula, ae. f. 手紙、文章【ラテン語】

音楽科特集号

vol.
25

大分県立芸術文化短期大学
2012. Spring

創立50周年記念 オペラ ガラ コンサート

2012年3月2日
iichikoグランシアタ

世界的プリマドンナで、本学客員教授として学生の指導にあたっている佐藤美枝子氏（ソプラノ）、本学出身で、アメリカを中心にプリマドンナとして演奏活動をしている木下美穂子氏（ソプラノ）、男性ソリストとして本学出身で東京二期会の主役として活躍する伊藤純氏（バス）、藤原歌劇団の若手ソリストとして活躍する押川浩士氏（バリトン）を招き、さらに、地元大分の県民オペラ、大分オペラアンサンブルなどで活躍し、大分の音楽文化に貢献してきた梅津百合子氏（ソプラノ）、野村高子氏（ソプラノ）、吉

原恵子氏（ソプラノ）、本学教員の宮本修教授（バリトン）、愛甲久美准教授（メゾ・ソプラノ）、行天祥晃准教授（テノール）も加わり、オペラガラコンサートを盛大に開催しました。

演奏は本学管弦楽団及び合唱団、指揮は本学森口真司准教授が行い、世界的プリマドンナの共演とともに、多彩なプログラムによって聴衆を魅了しました。



2年制専攻科ピアノコース修了生選抜による

創立50周年記念ピアノコンサート

2011年10月19日
iichiko音の泉ホール

2007年芸短大専攻科は、従来の1年制専攻科から大学評価・学位授与機構認定の学士号取得可能な2年制専攻科に生まれ変わりました。以降、ピアノコースでは学士号取得希望学生の全員が学位授与機構審査に合格し、学位を取得し専攻科を修了しています。ピアノコースでは、芸短大創立50周年を記念して、この改組された2年制専攻科を優秀な成績で修了した4名の卒業生によるジョイントピアノコンサートを企画しました。4名の卒業生は、それぞれの方向で現在も研鑽を続けて

おり、当日の演奏会は聴衆に素晴らしい感動を届けることができたものでした。バッハ/ブゾー作曲の「シャコンヌ」を越智可奈子さん（2010年修了）、リスト作曲の「ダンテを読んで」を福岡史帆さん（2011年修了）、リスト作曲の「孤独の中の神の祝福」を山元麻也さん（2011年修了）、ラフマニノフ作曲の「コレリリの主題による変奏曲」を山崎文乃さん（2009年修了）がそれぞれ個性豊かに演奏しました。

平成23年度 音楽科 演奏会

- 芸短音楽科コンサートシリーズNo.55公開研究発表Ⅰ
2011年6月8日（水） iichiko音の泉ホール
- 芸短音楽科コンサートシリーズNo.56公開研究発表Ⅱ
2011年6月29日（水） iichiko音の泉ホール
- 芸短音楽科コンサートシリーズNo.57若さあふれるコンサート
2011年9月19日（月祝） iichiko音の泉ホール
- 創立50周年記念 第47回定期演奏会
2011年10月10日（月祝） iichikoグランシアタ
- 2年制専攻科ピアノコース修了生選抜による 創立50周年記念ピアノコンサート
2011年10月19日（水） iichiko音の泉ホール
- 川瀬麻由美と門下生による10周年記念コンサート～芸短生との10年の歩み～
2011年11月4日（金） iichiko音の泉ホール
- 芸短音楽科コンサートシリーズNo.58ピアノコース演奏会
～ピアノ音楽への誘い～
2011年11月16日（水） iichiko音の泉ホール
- 宮本修退官記念「冬の旅」独唱会
2011年11月30日（水） iichikoグランシアタ
- 芸短音楽科コンサートシリーズNo.59管弦打コース演奏会
～師走に心温まるひとときを…～
2011年12月14日（水） iichiko音の泉ホール
- 芸短音楽科コンサートシリーズNo.60声楽コース演奏会～声の饗宴～
2012年2月17日（金） iichiko音の泉ホール
- 創立50周年記念 オペラガラコンサート
2012年3月2日（金） iichikoグランシアタ
- 第50回音楽科卒業演奏会
2012年3月21日（水） iichiko音の泉ホール
- 第28回音楽専攻科修了演奏会
2012年3月22日（木） iichiko音の泉ホール

平成23年度 学外講師による講座

- 佐藤美枝子客員教授 特別学内公開レッスン
2011年5月20日（金）音楽棟小ホール
- 小林道夫客員教授 声楽特別講座
2011年7月13日（水）音楽棟小ホール
- NHK交響楽団 コントラバス奏者 西山真二氏による公開レッスン
2011年7月24日（日）音楽棟小ホール
- NHK交響楽団 チェロ奏者 桑田歩氏による公開レッスン
2011年7月24日（日）音楽棟合奏教室
- 瀬山詠子講師 声楽特別講座
2011年8月6日（土）～9日（火）人文棟大講義室
- NHK交響楽団 ヴィオラ奏者 小野富士氏による公開レッスン
2011年8月10日（水）音楽棟小ホール
- アキレス・デレーヴィニウ先生 ピアノ公開レッスン
2011年11月10日（木）音楽棟小ホール
- 小林道夫客員教授 声楽特別講座
2011年12月7日（水）音楽棟小ホール
- 佐藤美枝子客員教授 特別学内公開レッスン
2012年3月3日（土）音楽棟小ホール

地域巡回演奏会

巡回演奏会は、一般県民や小中学生を対象に、クラシックの楽しさを伝える目的で県内を巡回する演奏会で、昭和61年から始めました。23年度は9月14日と15日にかけて佐伯と津久見で行い、教員・副手も含め48名が参加しました。プログラムは、ピアノソロ・金管アンサンブル・合唱・オペラミニステージ・小編成オーケストラなどで、忙しい中での準備や練習は皆大変ですが、授業を離れて子供たちや地域の人達の前で演奏できる機会は毎回貴重な楽しい経験です。

公開講座

「全日本吹奏楽コンクール課題曲指揮講習会」

5月11日（水）・18日（水）18:45～20:45 小ホール

指揮コース：森口准教授・管弦打コース：松倉教授と清水教授・作曲コース：河野教授の4名により吹奏楽コンクール課題曲講習会を芸文短大において初めて開催致しました。「指揮が変われば、音楽が変わる」と副題を付け、多くの学校が取り上げていた課題曲ⅡとⅣを題材に、アナリーゼ→指揮→演奏→質疑応答と進めました。

受講者は、県内の中学校・高等学校の吹奏楽顧問や一般団体の関係者、聴講者は吹奏楽連盟理事長をはじめ多くの指導者や演奏者が参加いたしました。演奏は、管打楽器専修学生たちに加え県立雄城台高等学校のサキソフーンによる臨時編成が担当いたしました。地域貢献と大分の吹奏楽のレベル向上を目的として開催致しました。これらは、朝日新聞にも掲載されました。



NHK交響楽団
コントラバス奏者
西山 真二氏



NHK交響楽団
ヴィオラ奏者
小野 富士氏

